

部活動って、魅力がいっぱい！

岐阜市立青山中学校 3年

脇原 綾花

努力をすることは大切、例えそれが報われなかったとしても。今の私は、自信をもってそう言えます。そう思えるのは、この3年間の部活動の経験があるからです。

2年前に中学校に入学した時、正直私は部活動に前向きではありませんでした。なんとなく小学生の頃やっていたという理由で入部し、入部してから、しばらくは淡々と練習をこなす日々が続きました。でも、1年ほど経つと、その感情は変わってきました。部活動が楽しくなってきたんです！それは、日々の部活動を通して学ぶことが増えてきたからでした。

先輩や、顧問の先生、コーチに対してきちんと挨拶すること。より精度の高いチームプレーを目指すために、自分の思いをはっきりと伝えること。この大切さは、みんな先輩の姿から学びました。自分の思いをはっきりと伝えることで、チーム内でぶつかり合うこともありました。でも、その度に大切なことを確かめ合い、チームが精神的に強くなっていきました。

強くなっていく自分。強くなっていく仲間との絆……。同じことが好きな仲間と同じ目標に向かって頑張ることって、部活動ならではの経験だと思います。

そんな部活動について、少しモヤモヤしていたことがあります。

最近では、以前よりも部活動の回数が少なくなり、土日の練習の形も変わってきました。地域移行により、私たちの部も地域クラブ化して、熱心に教えてくださるコーチから指導を受けることもできています。

それでも、民間のクラブチームは強い。私たち以上の練習環境や練習時間。正直、羨ましいです。部活でも、同じだけ練習できたらなんと、一生懸命やって勝ちたいからこそ、もっと練習したいなど、何度も思いました。じゃあ、クラブチームに入ればいいと言われるかもしれませんが、そんなに簡単ではありません。両親に送り迎えをお願いしなければならないこと。よりお金がかかること。今までの仲間と離れて参加すること。それらは、考えもできませんでした。でも、最短距離で強くなれるのも、やっぱり羨ましい……。

また、私は顧問の先生との関わりも大切にしてきました。ニュースでは、地域移行は先生の負担を減らすという目的もあると聞いています。とてもよく分かります。でも、顧問の先生がいることで、いつもどこかで「学校の代表」というプライドや所属感、安心感が生まれました。顧問の先生とバレーを楽しみたい。でも、先生たちのことも考えなければいけない……。

これらの悩みを抱えているのは決して私だけではないと思います。私は、自分の成長も、仲間との絆も感じられる部活が、もっともったかったんです。地域移行という波の中で、私たちは考えさせられることがありました。この取り組みが進んでいく中で、システムが精選されて、誰にとっても、良い活動になっていくことを願っています。

この先の部活動がどんな形になっていくかは分かりませんが、私にとって部活動は、もし無かったらどうなっていたか分からないくらい、大きな成長のきっかけになったものであることに変わりはありません。

ずっと試合に出続けられていたわけではありません。辛いこともたくさんありました。でも、それを乗り越えた経験が、日常で頑張る力につながっています。「あれだけ部活で頑張ったから」という経験が、学級で発言する勇氣や、「勉強やりたくないな」という気持ちに耐える強さを与えてくれています。

部活動での経験が、私を精神的に強くしてくれました。だから私は、報われなかったとしても、努力することは大切だと、自信をもって言えます。

私が青山中学校バレーボール部の部員として活動できるのは残りわずかです。引退を間近に控えた私は、先輩や部活に関わってくださる皆さんに、改めて伝えたいです。「部活は大切な時間 部活は奥深い」

私は先輩にこの思いが伝わるよう、最後まで一生懸命プレーし続けます。そして日常生活でも、自分が納得できる努力を続けていきます。それが私を育ててくれた部活動の「魅力」を何より伝えることになるからー。